

第72回JIAアーバントリップ見学会の報告

実施日 : 2013年06月29日 (土)

テーマ : 「新しい大学キャンパスの創り方～中野再開発の場合～」

見学趣旨 :

中野北口周辺は大規模な再開発が進行中です。昨年の事務所ビルに引き続き今年は2大学が竣工・開校しました。少子化が進む我が国の教育環境では、魅力ある教育施設としての学校施設整備が盛んに行われ続けていますが、都心に戻ってきた大学はどのように考えてこの場に進出したのでしょうか。また、特徴ある中野という土地とどのようにかかわり、周辺の再開発とどのようにかかわっているのでしょうか。

今回は、2つの学校の施設を見学し、その施設を造った背景を探るとともに、設計者がそれにどのような回答をしたかを、探ってゆきたいと思います。

見学先 :

1. 「明治大学中野キャンパス」

設計 : 三菱地所設計 説明者 : 松尾利彦・内山宗幸

施工 : 清水建設

2. 「帝京平成大学中野キャンパス」

設計 : 日本設計 説明者 : 安本高士・青木潤

施工 : 大林組

3. 「早稲田大学中野国際コミュニティプラザ」(計画説明のみ)

設計 : 石本建築事務所 説明者 : 能勢修治

第72回コーディネーター 大川 直治 (大川建築都市設計研究所)



帝京平成大学屋上より

(中央) 中野四季の森公園

(正面) NAKANO CENTRAL PARK WEST

(右) NAKANO CENTRAL PARK SOUTH



全景：明治大学（中央） 帝京平成大学（右） 事務所ビル（左） 明治大学 エントランス



帝京平成大学 外観

帝京平成大学 エントランス大階段



明治大学 エントランス前

明治大学 学生ラウンジ

帝京平成大学 中庭

第72回アーバントリップ見学記

6月29日土曜、晴天の下、第72回JIAアーバントリップが開催された。今回の見学地は、JR中央線中野駅のすぐ近く、線路の北側に位置する警察大学校跡地を中心とした再開発地区で、プログラムは大きくふたつで構成され、ひとつは、正規見学としての「明治大学中野キャンパス」ならびに「帝京平成大学中野キャンパス」の見学、そしてもうひとつが、自由見学としての、同じ再開発地区内にあるその他の建物の見学となっている。現在では「中野四季の都市（まち）」と呼ばれている再開発地区内には、ふたつのオフィス、NAKANO CENTRAL PARK WEST、NAKANO CENTRAL PARK SOUTH や警察病院、中野四季の森公園などがすでに竣工、整備され、早稲田大学国際コミュニティプラザ（留学生寮）が現在工事中である。また、設計説明の一部として、警大跡地の歴史や地区計画の概要、再開発にあたってのJIA中野地域会の取り組み、早大国際コミュニティプラザの設計概要なども紹介された。

見学のテーマは、特徴ある中野というまちと、まちづくりを行う中で、建築と都市計画がどうかかわったのか？である。

自由見学を含めた一連のプログラムを終えて感じたのは、空疎感、ある種の物足りなさであった。見学した建物は、ともに、大学都市型キャンパスに求められる多様な機能・要素、要求を高い次元で手際よくまとめた、秀作・力作であるだけに、一層、違和感があるのかもしれない。再開発地区にある建物はどれも孤立的で相互のかけあいも、オープンスペースへの働きかけも見られず、公園もただポカンと空いているだけである。

そもそも、中野というまちは、都心直近の古くからの住宅地で、今や比較的安価な家賃や物価、利便性などから「住んでよかった街 No.1」ともなっている。駅前アーケード商店街・中野サンモールの賑わいは印象的で、中野ブロードウェイに代表されるサブカルチャーの発信地としても有名である。そうした特質をこの再開発の中でどこか引き継ぐようなことができなかつたか残念でならない。見学が土曜日ということもあって、まちにはビジネスマンや学生はほとんど見かけられず、それが災いしているのかもしれない。

秋葉原の再開発を思えば、やはりそこには「らしい」面影はなく、他所となんら変わることはない。最近のデベロッパー主導の再開発事例でも、積極的にデザインガイドラインを設け、協議会などでの相互調整や集積を重ねたとしても、その成果は芳しいものが少ない。いまだ、われわれは、業務・商業・住居・文化・教育など複合する超高層高密都市のまちのイメージを描ききれていないのだ。

見学の帰り際に見かけた、わずか公園の端部に設けられた水場に溜まり、キャーキャーと歓声をあげ遊ぶ子どもとそれをいとおしく眺める親たちの姿に少しは救われる思いがした。